

チムル

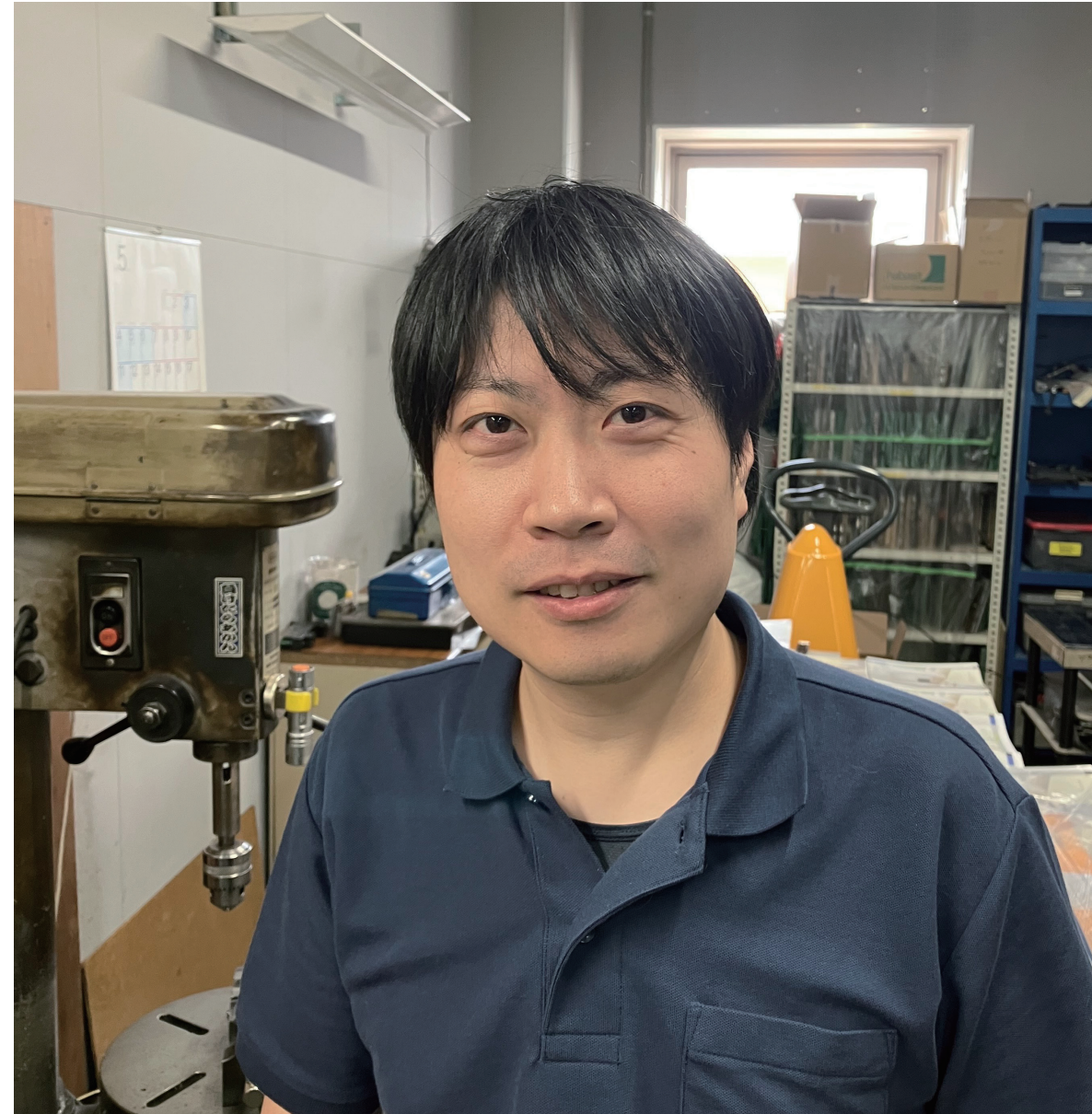
印刷を支え加工を活かす

Interview 79

技術部 課長

なか たい いち
中田 圭一

「機械に愛情を持ってほしい」と話すのは、製本に欠かせない機械の修理やメンテナンスを担当する中田さん。百戦錬磨の技術で、今日も工場の心臓部である機械たちを守っています。製造現場を支える技術。そして、その裏側に秘めた想いに迫ります。



——お仕事中、どのような瞬間に「技」が試されると感じますか？

例えば、故障した機械を修理するときなどでしょうか。限られた時間の中で終わらせなければならず、経験に基づく対応力がモノを言います。当社は様々なジャンルの機械を有しており、その数は200台に達するほど。40～50年前に生まれた古い機械も多く、すでにメーカーがサポートを終えているケースもあります。

それでも、現場の製造を止めるわけにはいきません。他の機械と見比べながら直したり、社内にある機械を代用できないか考えたり、それらを同時並行で試していったり……。持てる知識と技術を駆使し、都度対処にあたっています。

——技術習得のために行った努力や工夫を教えてください。

上司・先輩から教わり、修理経験を重ね、日々勉強しながら知見を深めていきました。特にご指導いただいたのは、技術部に籍を置いていた

う強い使命感。恩師から受け継いだノウハウを胸に、今日も機械トラブルと向き合っています。中田さんの終わらぬ挑戦が、きっと当社の明日を切り拓いていくことでしょう。



当時の河井専務です。専務は当社に入る前に機械メーカーで開発をしていたため、技術力はお墨付きです。しかも当時の技術部は、専務と私の2人だけ。修理から専門知識にいたるまで、マンツーマンで教わった思い出があります。

——「最高の仕事ができたい」と感じたエピソードを聞かせてください。

今から5～6年前、工場移転に伴う機械の移設作業を担当したことがあります。本社工場、瓜破工場、東大阪工場の間で100台以上の機械を移動させる必要があります、3か月ほどかけて取り組みました。引っ越し

の最中でも、可能な限り機械は止め

ません。使用していない機械を少しずつ運び、移動させたらすぐに立ち上げる、という繰り返しです。一部の大型機械は業者に依頼しましたが、その日程調整にも一苦労。結局総台数の7割は、私と専務とベトナム人実習生の3名で実施しました。

すべて終わった後に得たものは、とても大きな達成感です。ささやかな打ち上げを行い、喜びを分かち合ったのを覚えています。当時ご協力いただいた皆さん、その節は本当にありがとうございました！

——「品質」を支えるために大切にしていることは何ですか？

ハイクオリティを担保する「検査装置」の運用・管理です。現場から「こういう検査はできないか」と要望があれば、実際に装置を作って応えることもあります。

また、今ある装置や機械を正常稼働させ続けることも重要なポイントの1つ。機械を扱っているスタッフ自身がメンテナンスできればそれが一番なのですが、まだ技術が追いつ

いていないのが現状です。質問への回答や説明を行いながら、私たちも現場のスキル強化に努めていきたいと考えています。

——社員の皆さんへ伝えたいことはありますか？

機械の故障や異音の発生を確認次第、決して稼働を続けず、すぐに報告をお願いします。機械の異常に気付けるよう、普段から機械の様子をしっかり観察しておきましょう。長年付き合ってきた機械は相棒とも言える存在です。定期的なメンテナンスを欠かさず、愛情を持って使い続けていってください。

ゆくゆくは、現場がさらに楽になる環境の構築を見据えています。近年は、ロボットを使った自動化やシステム化が目まぐるしく進む時代です。私も勉強を継続し、人手不足や重量物の運搬といった問題に少しでも対処していきたいと思っています。

中田さんの技術を支えているのは、「工場の稼働を止めない」とい



企業情報

- ◆ 創 立 年：1983 年 1 月
- ※ 創業：1963 年
- ◆ 年 商：17.6 億円
- ◆ 従業員数：200 人

※ 2023 年 12 月実績

幹部たちの ビジョンとパッション

第16弾

企業の成長を支える幹部たちの熱い想いと、未来への展望に迫るこの企画。

今回は、会社の屋台骨を支える管理本部の徳富課長にご登場いただきます。お客様の多様なニーズに応え続ける旭紙工。その強みを支える組織運営や人材育成について、その情熱を伺いました。

旭紙工の
ここがすごい！

旭紙工の強み

本業界では稀に見る、
充実した人員と設備

お客様の多様な要望へ柔軟かつ迅速に対応できることです。数千万部単位の冊子を24時間体制で製造した実績は、充実した機械設備と人員の証です。この業界には珍しく、8名の営業体制で中部以西の広範囲をカバーし、大ロットや特殊な加工が必要な案件にも対応。多様な加工技術でお客様の「こんなものを作りたい」という想いを形にします。

社員教育で
個々の対応力をアップ

管理本部が中心となり、人事評価表や役割要件表に基づいて全社員対象の教育計画を策定し実施。若手から工場長までが対象で、成果は公平公正な評価を経て昇給や賞与に反映される仕組みです。これにより社員は成長を実感し、モチベーションを高められます。この継続的な教育と評価システムが個々の能力向上に繋がり、会社全体の力を高めています。

今後長期的に成し遂げたいこと

一人ひとりの「誇り」と
「やりがい」をサポート

当社は、一般の方々にはあまり知られていませんが、有名なプロスポーツチームのカレンダーを製作するなど、業界では一目置かれた存在。そうした仕事に携われるやりがいを待遇面でもサポートし、「安心感」を持って働ける環境を整備していきたいと考えています。そのため、経理・総務の立場から、勤怠・給与システム刷新による管理・サポート強化や、助成金などを活用した社員還元を進めています。製造現場では立ち仕事も多く、体力的に厳しい面があるのも事実。そのような皆さんの待遇を向上させ、「この会社で頑張って良かった」と思えるよう、人材確保と会社の持続的な成長を目指します。



徳富さんの
考えとは？

管理本部 課長

とくとみ たかひろ
徳富 孝宏さん



課長としての信念

常に情報を取り入れ、
最新化していくこと

管理部門の業務は法改正や新制度導入と密接に関わっており、アルコールチェック義務化や熱中症対策の新基準といった変化に、迅速かつ適切に対応する必要があります。そのため、最新情報を正確に把握しなければなりません。日頃から、コストを抑えつつ、基準を満たす方法を模索。こうした情報収集と的確な判断が、会社の法令遵守と健全な経営に繋がると信じています。私一人が担当する業務も少なくないため、責任感を持って対応にあたっています。

仕事をする上で大切にしている考え方

期日を守るための
段取りを徹底

「期日を守る」意識が強まったのは、コロナ禍の雇用調整助成金申請。要件が頻繁に変わることも多く、必死の情報収集を重ね、申請を行い、従業員を一人も減らさずに、この難局を乗り越えることができました。この経験から、情報収集と期日厳守の重みを痛感。資金調達や助成金など、遅延は会社にも損失を生じかねません。業務遂行に向けて段取りと準備を徹底するため、GoogleカレンダーやToDoリストを活用し、全業務を管理。期限を明確化し、抜け漏れ防止と効率の向上に繋がっています。

